



05

奨励賞

くほんぶつじょうしんじえんまどう 九品仏浄真寺閻魔堂

受賞者

施主 宗教法人浄真寺

設計者 大成建設株式会社一級建築士事務所

施工者 大成建設株式会社 東京支店

九品仏浄真寺は世田谷区奥沢の閑静な住宅街に在り、1678年創建の浄土宗の名刹である。今回の計画は、境内にある既存閻魔堂の老朽化に伴う建替である。施主から、「出来るだけ接合金物を使わず伝統的な木組みによる工法としたい」という要望から構造設計者とも検討を重ね落し込み板壁を提案した。ただし、従来の落し込み板壁では構造耐力が不足することから高性能落し込み板壁※「T-WOOD 組み板壁」を開発し答えた。これにより柱脚金物のみとすることが出来た。境内の建物は浄真寺を開いた河碩上人の弟子の河憶上人が指揮したことから「河憶造り（かおくづくり）」と呼ばれており、太い柱とてりむくりの茅葺き風の屋根が特徴的である。この閻魔堂も境内の建物と調和するように河憶造りに倣いどっしりとした太い柱と茅葺き風のてりむくりのある銅板屋根で仕上げた。

使用した木材は施主の希望で化粧・造作材は青森県産のヒバとし、小屋組み・下地材は岐阜県産のヒノキ、スギを使用した。深い軒と大屋根、太い柱、板壁、簡素な軒組み物などシンプルな作りながら安定感があり迫力のある外観とした。内部も閻魔像に負けない力強い四天柱や青森ヒバの芳香や木肌など五感に訴える建物とした。

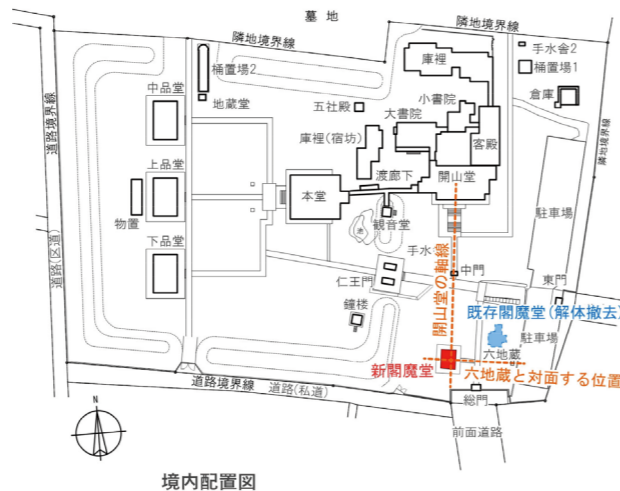


緑に囲まれた境内と浄真寺の文化財

浄真寺の境内地は、元は奥沢城（世田谷区指定史跡）があった場所で、現在も当時の土塁跡が残されており、緑に囲まれた自然の要塞のようにも思える。約1万坪の境内には26棟の堂宇が建立されており、多くは木造の歴史ある建物である。中でも三仏堂と称される阿弥陀堂（世田谷区指定）が有名で、「九品仏」の名にも由来する九体の阿弥陀如来像（東京都指定）が三棟の阿弥陀堂に各三体ずつ安置されている。また、三年に一度行われる「阿弥陀如来二十五菩薩来迎絵（お面かぶり）」（東京都指定無形民俗）と呼ばれる練り供養があることでも有名である。現世と来世に見立てた本堂と中央の上品堂とに仮橋を掛け、阿弥陀様の来迎を表現したものである。境内の庭は趣があり丁寧に整備され、四季ごとに彩りを変え、訪れる参拝者に癒しと活力を与えてくれるパワースポットでもある。

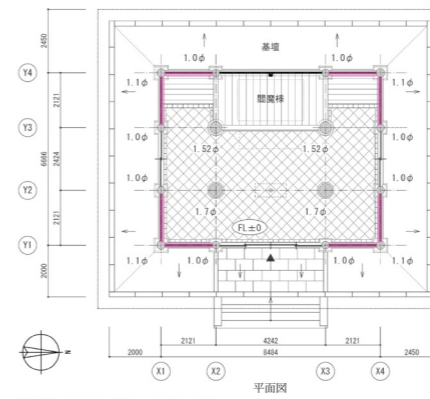
閻魔堂の配置計画

新聞魔堂をどこに配置するか、境内の既存建物とのつながりや関係性をより明確にするため施主の希望も考慮し検討した。結果、既存の閻魔堂から参道を挟んで向かい側のちょうど開山堂の軸線と六地藏の軸線の交点に決まった。総門を入ってすぐ左手に場所を移し訪れる参拝者を迎えている。



耐力壁の配置

建物外周部の四隅をL型に高性能落し込み板壁による耐力壁とした。今後の閻魔堂の耐用年数と安全性を考慮し、基礎はFc=36の超長期のコンクリートを使用した。屋根は銅板葺きとし、小屋組みは伝統的な和小屋とした。2.45メートルある深い軒は、枯木と化粧垂木を用いて支える架構とした。

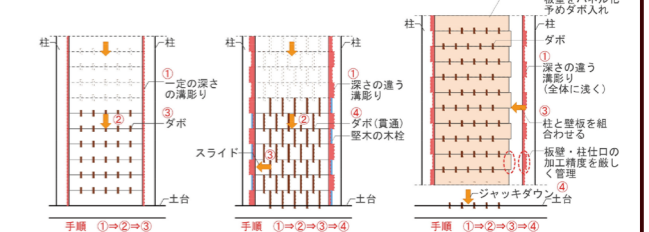


高性能落し込み板壁*

従来の落し込み板壁は、柱に一定の溝を彫り、ダボを入れながら壁板を落し込む。今回開発した高性能落し込み板壁は、柱に深さの違う溝を交互に彫り、壁板を落し込んだ後、深い溝にスライドさせて組み合わせ、壁板の上部からダボ穴を貫通させダボを打ち最後に柱際で木栓を打ち締め付ける工法である。これにより、ガタ付を低減した高性能な落し込み板壁となる。更に今回は作業性を考慮し、事前に壁板同士をダボを入れて繋ぎパネル化し、柱際の木栓を打たない改良案とした。柱には深い溝と浅い溝があるのは同じだが、全体に浅く柱の欠損を少なくした。加工・組立の精度を厳しく管理し対応した。

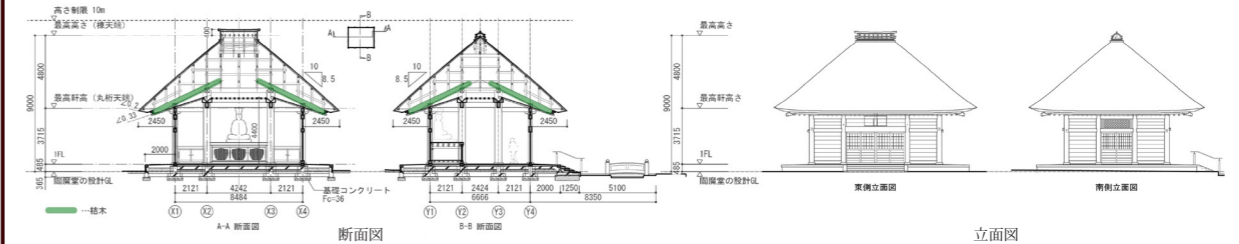
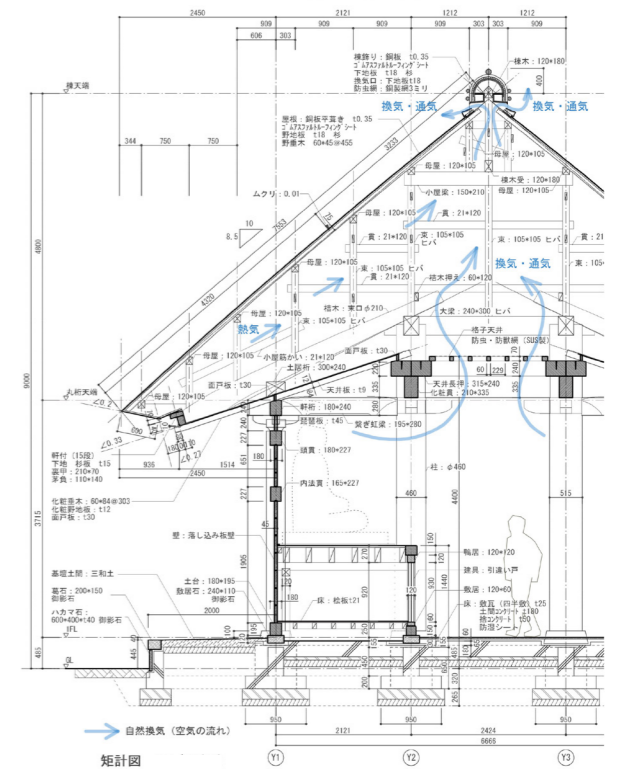
*今回開発した高性能落し込み板壁は「T-WOOD 組み板壁」。

【落し込み板壁のイメージ図】



閻魔堂の設備・換気対策

室内は自然な通気による換気とした。南北の開口上部の菱格子は常に開放された欄間で、堂内に入った空気は、天井板を張っていない中央の格子天井部分から小屋裏を通り、棟飾りに設けた換気口から抜けるようになっており、木材の湿気による腐れやカビの発生にも有効な対策とした。小屋裏に溜まった熱気なども自然に上昇し、同様に換気口より放出され、木材の耐久性・長寿命化にもつながると考えた。



受賞概要・講評

世田谷所在の浄土宗寺院の閻魔堂が、老朽化に伴う建替え工事を行ったもの。青森県産のヒバを化粧材・造作材に、岐阜県産のスギ・ヒノキを小屋組材・下地材に活用している。伝統的な落し込み板壁の工法を改良し、十分な構造耐力を維持する一方で接合金物の使用を最小限に留めた。本作品については「改良工法での板材の組合せにより、一般的な材を使用しながらも耐震性を確保している点」「都市部へ伝統工法による木造寺院が建てられることの文化的価値」等が評価された。